

スピードメーター検査時の留意点について

一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会

令和6年10月よりOBD検査が開始されたところです。

国土交通省主催のOBD検査モニタリング会合※においても取り上げられておりますが、トラクションコントロール（TRC）機能等の搭載車両において、ドラムテスター等を用いてスピードメーター検査をする際、DTCが入力し警告灯が点灯する可能性があり、また、OBD検査対象車に関わらず、ドラムテスター上でのTRC機能等の不要作動は、運転者の意図せぬ挙動となるため、検査が“安全”に“正しく”実施できない可能性があり、これらを防ぐためには、検査前に各自動車メーカーが案内する不要作動をさせない設定が必要となります。

つきましては、本件の概要と留意点をご案内しますので、適切なスピードメーター検査実施の参考としていただきますようお願いいたします。

※OBD検査モニタリング会合 特設ページ【国土交通省ホームページ】

https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_OBD_MonitorConf.html

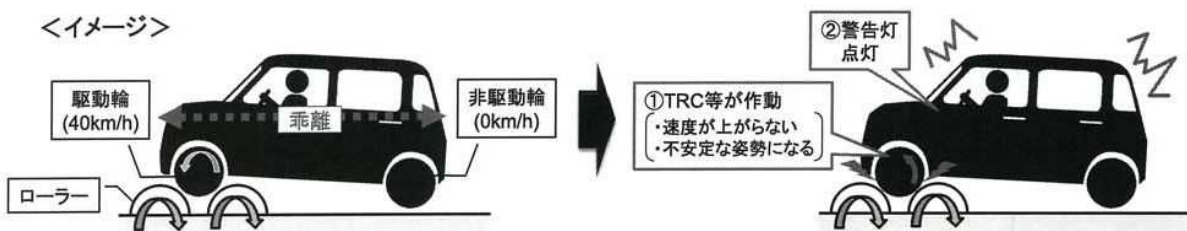
（１）ご指摘事象の概要

OBD検査対象車に関わらず、トラクションコントロール（TRC）機能等の搭載車両において、ドラムテスター等を用いてスピードメーター検査をする際、下記事象が発生する可能性がある

- ・ 車両安全性を確保するための機能（トラクションコントロール等）が作動
車輪速系のセンサ出力に乖離が発生することで、低μ路走行時等と似た状況となりアクセル開度に対して駆動力を抑制する制御を行う可能性がある
- ・ DTCが入力し警告灯が点灯

※ 実際に発生する事象や警告灯点灯・消灯（DTC入力・消去）の条件は、車両で異なるため上記はあくまで一例

<イメージ>



- ・ドラムテスター上でのTRC機能等の不要作動は、運転者の意図せぬ挙動となるため、OBD検査への影響以前に、検査が“安全”に“正しく”実施できない可能性がある
- ・上記を防ぐために、検査前に各メーカーが案内する不要作動をさせない設定が必要

(2)ドラムテスター使用時に必要な設定(R7年6月時点)

メーカーが案内する主な設定は下表にて。詳細は整備マニュアルや取扱説明書等をご確認
【前提条件】対象車:OBD検査対象&用品等の装着無し、対象作業:ドラムテスターを使用したスピードメーター検査作業

メーカー	①必要な設定(主な例) ※詳細方法は、車種毎で異なるため 整備マニュアルや取説等をご確認下さい	②①が未設定の場合のリスク		
		作業安全性等の 低下の可能性	DTC入力 の可能性	特定DTCの可能性
スズキ	ESP® OFF スwitchの長押し	あり	あり	あり
SUBARU	ブリクラッシュブレーキOFFスイッチの長押し 又はインフォメーションディスプレイでOFF設定	あり	あり	あり
ダイハツ	VSC OFFスイッチの長押し	あり	あり	あり
トヨタ	整備モードへの移行 又はVSC OFFスイッチの長押し	あり	あり	あり
日産	整備モードへの移行	あり	あり	あり
ホンダ	VSAメンテナンスモードへの移行 又はVSA OFFスイッチ長押し	あり	あり	あり
マツダ	TCS(DSC) OFFスイッチを押す	あり	あり	なし
三菱	ASC OFFスイッチを押す	あり	あり	あり
いすゞ	ASR OFFスイッチを押す	あり	あり	なし
日野	VSC/ASRオフスイッチを押す	あり	あり	なし
三菱ふそう	ローラーテスターモードへの移行 又はESP/ASRカットスイッチを押す	あり	あり	あり
UDトラックス	ローラーベンチモードへの移行	あり	あり	あり

【補足】
①が未設定時の
DTC入力までの
時間や確率は、
車両により異なる
(DTCの入力条件
が異なるため)

(3)警告灯点灯(DTC入力)時のご対応

万が一、検査時に警告灯が点灯した場合は、その原因が「検査作業によるもの」か、または「実際に車両が故障しているのか」を確実に確認し、整備マニュアル等に記載の修理方法に従ってご対応下さい（該当部位の整備 or スキャンツール等によるDTC消去作業 等）

- ・ドラムテスター使用時は、本資料の設定対応等が必要なため、安全で確実な作業を実施いただくためにご対応願います
- ・また本件以外にも、作業上の注意点等は整備マニュアルや取扱説明書にも記載しているため、特に初めて取り扱う車両や初めて行う作業に対しては、必要に応じてご確認ください